

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2021年
2月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

今わたしたちにごできること

司祭 バルナバ 永野 拓也



教会での「コマ

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合同様である。つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者である

うと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊を飲ませてもらったのです。」
(Iコリント十二：十二～十三)

先日、ある方から「教会に来られない時期が続いた時に、〇〇さんから連絡をいただいて、とても励まされました。」という話をお聞きしました。またある方が、教会に久しぶりに来る事ができた方に「毎朝お祈りしていただきました。」と声をかけている姿をお見かけしました。コロナ禍において、これまでのように教

会に来ることができない方が多くいらつしゃいます。また以前のような活動が難しくなっている日々が続いています。私は、このような時だからこそ、「教会とは何か?」という事を考えるきっかけにしたいと思っています。

教会の一致

「教会とは何か」という事を論じる上で欠かすことのできない人物に、キプリアヌスと世紀、キリスト教がローマ帝国から迫害されていた時代のカルタゴの司教でした。迫害の時代には教会から離れてしまいう人が多くいましたが、迫害が終わると教会に戻ってくる人もいました。そして、そ

のような人を巡って、迫害下でも教会に留まっていた人の一部から不満が出て、教会は分裂の危機を迎えます。その時、キプリアヌスは教会のことを「太陽は多くの光線を持つているが、一つの光があるのみである。一本の木には多くの枝があるが、一つの幹のみが深い根から上に伸びている。そして、多くの小川もただ一つの水源のみから流れ出てくる」と表現したので

す。つまりキプリアヌスは、「教会とは何か」と考える時に「一致を実現すること」が大切であると述べたのです。

私たちにできること

時を同じくして、ローマ帝国内ではパンデミックが発生してしまいました。そこでキプリアヌスは、病む人と危険な状態にある人々をケアすることに集中するようにと教会に指示を出しました。「教会の一致」を強く主張したキプリアヌスは、人々に隣人へのケア

と憐れみの実践を求めていたのです¹⁾。

英語の care for という言葉を調べてみると、「の世話をする・を介護する」という意味だけではなく、「のこ事を思いやりを持って考える」という意味もあるようです。コロナ禍において、直接お会いすることが難しい方が多くおられます。また、私たちの近所にも誰にも会うことができず困っている方がいるかもしれません。そのような時にこそ、私たち一人ひとりが、「〇〇さんのことを思いやって考え、行動に移してみる」ことが「教会」を創り出していくことに繋がっていくように思います。

1. 聖マリアレット教会HPに掲載の The Eucharist and coming out of lockdown: A tract for these COVID-19 times, 「聖餐式再開について考えるために」を二〇二〇年十二月三十一日に参照。

(広島復活教会副牧師)

ニデナリオンの隣人を求めています



マイラ・E・ドッキョゲン姉

管区の総会がリモートで行われた十月の末、植松首座主教様の所へ北ルソン教区のヒラリー主教様から、フィリピン聖公会の信徒が日本で交通事故に遭ったとの一報が入りました。

彼女はマイラさんという二十八歳の介護士候補生で、日本で研修を始めてまだ一年と経たない青年です。徳島県の県境にある、東かがわ市で通勤中に事故に遭い、昏睡状態となりました。

当初ご家族の到着を待つて、生命維持装置を外すか否

かの選択をしなくてはいけない状況とのつらい情報も入りました。しかし幸い数週間です。自発呼吸ができるようになり、人工呼吸器もはずれました。

けれども、技能実習生であれば帰国まで面倒を見ていただけなのですが、経済連携協定による看護師や介護士と、その候補生については、勉強して資格取得の後、長く日本国内で働いていただくことが前提にあるので、そのような仕組みがありません。

香川医大病院の説明によるとコロナ禍の現状では、帰国のために約一千五百万円の運賃がかかり、終息したとしても五百万円以上必要で、費用補助がない限り現実的ではありません。

十二月に入り、人道的な観

点から特別のビザが給付され、ご家族は日本に入国できましたが、二週間の隔離期間が必要で、待機期間を経て、妹さんと叔母さんがようやく香川県に到着することが出来たのは、十二月中旬のことでした。

大学病院ではコロナ禍のため面会も叶わず、意識の回復はかなり困難であるとの説明が主治医からありました。また、誤嚥性肺炎も発症し、現在は抗生物質で抑えているものの、微熱も続いています。

年末に済生会病院に転院し、一日十五分だけの面会が可能になりました。本人の医療費・療養費等は保険などで賄うことができますが、ご家族の滞在費用は、マイラさんの保険金や年金で賄うことは制度上できません。

幸い、ご家族の往復旅費については、フィリピン領事館が用立てており、返済義務もないようです。

事故後二か月目の初面会



けれども、一度出国すると、現状では何かあっても再び入国することは困難です。ビザの許す九十日間、ご家族は日本に滞在することを願っています。

フィリピン聖公会は、神戸教区も長くワークキャンプを通して馴染みのある教会であり、できる限りのサポートを、教区として検討中です。

今日、外国人労働者によって農業・漁業に限らず介護・

医療に至るまで、日本人の生活を支えて戴くため、国をあげて取り組んでいます。しかし、外国人労働者が増えれば、当然アクシデントに見舞われるケースも増えてきます。

神戸教区でも、私達の主にある家族が、異国の地で慣れない環境の中で苦境に立たされることを想定して、時間をかけ、共生の仕組みを作る必要があると考えます。

しかし、まずは、福音書のイエス様のたとえ話にある「傷ついた旅人の、宿代を負担した隣人」となって下さる方々を、求めたいと思います。

目標金額は二十万円、期間は二月末までといたします。詳細は各教会にお配りする趣意書をご覧ください。よろしくお願いたします。

（神戸教区教務局長
司祭 バウロ 上原信幸）

オーガスチンのまなざし



主教 小林 尚明

「コロナ禍の中で」

コロナ感染症は収束が見えず、不安は尽きません。この状況の中で、神様は私たちに何を語ってくださるのか、聴く日々を過ごしていました。

そんな中、十一月二十九日の降臨節第一主日の説教を考えていた時です。福音書はマルコ伝十三章の「目を覚ましていなさい」がテーマです。いつイエス様が帰って来られてもいいように、準備していなさい、という勧めの言葉です。「またか」という思いでした。

実は、十一月八日の特定二十七もマタイ伝の同じ「目を覚ましていなさい」でした。マタイ伝の方は、この後、「十人のおとめ」、「タラントン」、「すべての民族を裁く」と続きます。要は、目を覚ましてというの、準備が出来ているというの、自分の才能を神様のために使うこと、困っている人を助けること、とマタイは考えています。それではマルコは、

と考えて、この「目を覚ましていなさい」が結論で、その後、マタイのような具体的な指示がありません。そこで、もう一度、マルコ伝を読んでみました。イエス様の再臨の前に、戦争の騒ぎや地震、飢饉が起こり、クリスチャンの迫害、偽メシアや偽預言者が現れ、惑わそうとするのが氣を付けていなさい、と勧められています。そして、そのまとも

が「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない(十三・三十一)」でした。その後、一つの譬えがあったので、次に来るのが、この「目を覚ましていなさい」です。ですからマルコの考える目を覚ましていっていることとは、天地は滅びるがイエス様は決して滅びない、このイエス様をしっかり信じていることだと納得しました。これが無くなったら大変だ、と心配しているほとんどのものは、滅びるもの、過ぎ去っていくもので、本当の安心を与えてくれるものではない。イエス様だけを信じていればいいんだ、と安心しました。

そして、もう一つ気づいたことは、滅びていく、過ぎ去っていくものだからこそ、大切なもの、いとおしもの、だ、ということですね。それは、ものにしろ、人も同じです。大切にしたいと思います。

(神戸教区主教)

「徳山聖マリア教会」収穫感謝献金報告

二〇二〇年、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、神様のもとに集うことを喜びとする教会は、思うように礼拝や集会を行うことができませんでした。そのような事態にもかかわらず、当教会の教会建築事業のため、三度目となる収穫感謝献金にご協力いただき御礼申し上げます。そこで紙面をお借りし、感謝にかえて徳山の近況を報告させていただきます。

まず、そもそもこの建築事業は、老朽化した会館兼牧師者住居(当時築八十三年)をどう維持するかという問題と、現在行っている教会活動をどのように活発化させるかという問題に答えを求めたものでした。当然の事として教会の会館は「信徒のための会館」であるという思いがありました。が、この度の建築では思い切った「教会以外の方々にも利用しやすい会館」を目指しました。現在も運用面での試行錯誤が続いていますが、信徒そして外部の方々と共にいろいろ

な活動が行われています。定期、不定期なところもありますが、各種手芸、語学、習字、小学生学習教室、木工、聖書講読などのサークル活動やカフェやマルシェなどのイベントなどが行われています。



二〇一九年の会館への入場者数は、礼拝後の食事会、日曜学校、教会行事やバザーを除いて一〇三三名でした(「会館使用記録」調べ)。これを交流人口と位置付けて活動を継続してゆきたいと考えています。特に、カフェや手芸品の

展示・販売を行うマルシェでは、会館が出会いや交流の場になり、次の展開が期待されるものです。もちろんその時には、聖職と信徒も多少なりとも関わります。例えば、誰でもできる教会のビラ配り。こういった交流事業は、教会の情報を発信する場としても良い機会です。

さて、毎年桜の花びらが散る頃になると建築会計担当者さんは、そろばん片手にソワソワはじめます。日本聖公会管区には建築融資金運営委員会があり、そこからの借財が残りの約六〇〇万円(毎年約百万円返済)です。二〇一八年まで計画通り返済していましたが、教区分担金計算方法の変更や教会を支える信徒の減少などで不足が生じるようになりました。そのようなわけで、皆様のお祈りとご協力、本当に助かります。

最後に、一日も早く、はやり病の混乱が落ち着き、どなたも自由に神様のもとに集う事ができますようにお祈り申し上げます。

(片理 入馬)
徳山聖マリア教会信徒

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

十二月二十日(日)

トマス 池田 義広
下関聖フランシス・ザビエル教会
ベタニアのマリア

佐々木 美紀

マグダラのマリア

佐々木 七海

トマス 佐々木

陸

エステル 三宅 美希

倉敷聖クリストファー教会

十二月二十四日(木)

マリア 西本 信枝

広島復活教会

十二月二十五日(金)

スザンナ 前林 三智子

徳島インマヌエル教会

祝 堅 信

十二月六日(日)

グレイス 坂本 修子
ミカエル 石部 強
米子聖ニコラス教会

十二月二十日(日)

トマス 池田 義広
下関聖フランシス・ザビエル教会

初 陪 餐

十一月二十九日(日)

グレイス 益田 純 伶
ジョイス 益田 葵
明石聖マリア・マグダレン教会

十二月二十日(日)

トマス 池田 義広
下関聖フランシス・ザビエル教会
ベタニアのマリア

佐々木 美紀

広島復活教会

十二月二十五日(金)

スザンナ 前林 三智子
徳島インマヌエル教会

ご 逝 去

十一月 三日(火)

マーガレット 常永 秀子
岡山聖オーガスチン教会

十二月六日(日)

マリア 松本 志津枝
米子聖ニコラス教会

十二月二十四日(木)

マリア 西本 信枝
広島復活教会

フランシス 津田 信吾
徳島インマヌエル教会

公 示

救主降生

二〇二一年一月一日

日本聖公会神戸教区

主教 オーガスチン 小林 尚明

下記のように人事異動を発令します。

司祭 マルコ 藤井 尚人

二〇二二年三月三十一日付

神戸聖ヨハネ教会牧師の任を解く。

二〇二一年四月一日付

広島復活教会牧師に任命する。

二〇二一年四月一日付

呉信愛教会の管理牧師を委嘱する。

司祭 トマス 河村 博之

二〇二二年三月三十一日付

神戸聖ミカエル教会副牧師の任を解く。

二〇二一年四月一日付

神戸国際大学チャプレンに任命する。

二〇二二年三月三十一日付

(期間二〇二二年四月)

二〇二四年三月三十一日

司祭 ヨシユア 長田 吉史

二〇二二年三月三十一日付

広島復活教会牧師の任を解く。

二〇二二年三月三十一日付

呉信愛教会管理牧師の委嘱任を解く。

二〇二二年四月一日付

神戸聖ミカエル教会副牧師に任命する。

二〇二二年四月一日付

司祭 オーガスチン 興賀田 光嗣

二〇二二年三月三十一日付

立教英国学院出向の任を解く。

二〇二二年四月一日付

神戸国際大学附属高校チャプレンに任命する。

(期間二〇二二年四月)

二〇二四年三月三十一日

司祭 イサク 坪井 智

二〇二二年三月三十一日付

神戸教区主教座聖堂主日勤務の任を解く。

二〇二二年四月一日付
神戸聖ヨハネ教会の管理牧師を委嘱する。

執事 テモテ 遠藤 洋介

二〇二二年三月三十一日付

神戸聖ミカエル教会牧師補の任を解く。

二〇二二年四月一日付

東北教区出向を命ずる。

(期間二〇二二年四月)

二〇二四年三月三十一日

礼拝自粛の際などには教区ホームページの「主日の説教動画」「自宅での祈り」または「礼拝の動画」をご覧ください。また「礼拝の動画」をスマートフォンでも、共にお祈りをおささげください。スマホでもパソコンでもご覧いただけます。
https://www.nskk-kobe.org/



お詫びと訂正

神のおとずれ一月号四頁の「二月の教区逝去者記念式」の案内において、「説教 執事 河村博之」とありましたが、執事は誤りで正しくは司祭です。お詫びして訂正させていただきます。(広報部)